

大切な命

三年 上地桃華

五千六百三十五。なんの数字か分かるだろうか。これは日本で二十九年に犬が殺処分を受けている数である。今、日本はこういった「犬の殺処分問題」に取り組んでいる。

私たちがこうして何気なく生活している間にも、毎日犬が殺処分により命を落とされている。よく安楽死という言葉聞いたことはあるが、実際は「ドリームボックス」と呼ばれる部屋の中で命を奪われている。なんだか楽しそうな雰囲気のある名前だが、実際は犬や猫を殺処分するためのガス室(殺処分機)のことだ。「ドリームボックス」の中に入れられた犬や猫は炭酸ガスにより呼吸が出来なくなり窒息死で命を落とすのである。

こういった現実はとても悲しいと思う。私の祖母の家では殺処分前だった犬を引き取り飼い始めた。慣れてくれればとても可愛く、愛着も湧いてくるのに殺処分がある現実は変わらない。この現状を変えるために日本は頑張っているがなかなか減らない。これは私達動物を飼っている側にも問題があるのかもしれない。生まれてきた命ならば大切にしてお世話をちゃんとして殺処分問題はみんなで決めていくものだと思は思う。

だがいくら解決方法を探してもあまり変わらない。なので日本だけで見るのではなく、海外のやり方も実践してもいいのではないかと思った。海外では殺処分問題を起さない国があったり、殺処分がもうほぼない国もある。主にドイツやギリシャが動物愛護先進国だと言われている。今回は海外が行っているものを二つ紹介していく。

まず一つ目に、海外ではシェルターがある。そこで動物達は保護されていて、とても良い環境で育てられるようだ。だが日本はシェルターがある所が少なく、また人も必要でボランティアの方々も精一杯やっているがまだまだ人が足りない。もっと人を集めるにも今は大変だ。こういった状態で一人ではできないということがよく分かる。ぜひともみんなで無くしていきたい問題だ。

二つ目にここが日本と海外の大きな違いで、動物を売るペットショップが無いという事だ。おもちゃやドッグフードを売ったペットショップはあるが生体販売はほぼ無い状態だという。これは犬や猫などが入れられるケージの広さに基準となる数値が、法的に定められているからだ。海外ではこういった動物への法律がいくつかあるが、日本ではまだあまり出来ていないのだ。

日本はこのように海外の真似できるものからやっていき、最終的にはペットショップを無くすという方針で向かっていったらどうかと思う。

また犬や猫を飼うということは命を貰ったと同じようなものだから大切にしていきたいと改めて感じた。